

元型概念を日常的に実感する

1) 影との出会い、統合 青年期の課題

- (1) 親の価値観に呪縛され、親が敷いたレールの上を何の矛盾も感じないで歩かされてきた半生とその現実と直面し、自立を目指す(自分の人生を自分が決定し、主体的に生きる。身の不幸を誰かのせいにはしない)
- (2) グレートマザー・父元型との格闘;両親や母なるもの、父なるものを相対化する(内なる親殺しの内的作業に専念)
- (3) コンプレックス=個人的無意識(フロイト派)をワーキングスルー(徹底操作)、意識の拡大、自我を鍛える<ここではフロイト派の教育分析と同じ作業と思われる>
- (4) 社会や一般的常識・倫理を逸脱する人々の存在=元型が伝えてくるものを、内なる存在可能性として、静かに引き受け、抱え込み、内在化する作業が延々と続く

2) ペルソナ、アニマ & アニムス による自我形成のプロセス

- (1) 対外的パーソナリティの特徴；自分がこれまでの人生において好ましいものと判断して、無意識的につけている仮面(親から期待されたものとしてつけている場合が多い)、他者から見られている自分の像を客観的に見つめ直す。あるがままの自分をリアルに描写し、受け入れる作業(気づいて次に進める)。
 - (2) 内なる異性の成熟過程がその人の内実性を決める；{恋人、パートナー、永遠の憧れの人}に投影する魂のイメージ、その変容が内的成長を物語る
- @そのためには、本質的な意味で常に恋をしていなければ
真剣に生きていないと言えるかも


3) 老人(少年)元型、障害者元型、 死の受容、自己との直面化、根源 的自己受容、死の準備性

- (1) 本来健康状態にある人を意図的に深く傷つけ、日常世界では決して直面しないような様々な病理体験を深く味わい尽くす作業に専念する(難行苦行)
- (2) それは宗教的修行(千日行など)と似ている;一人でそれを行うと精神病の世界(幻覚妄想状態)に迷い込む可能性が大きい。宗教的修行で導師が就き浴い、夢分析では分析家が同伴する

(3) 分析心理学の真骨頂の領域; それだけに宗教やオカルト、スピリチャリティとの異同が厳しく問われている。体験した者がそれをどのように自己に納めるか

(4) このプロセスにおいて、神秘体験(ヌミノース、超常現象)を幾度となく通過し、個人(自我が関与する世界)を超越した聖なる次元の世界に参与する(精神病、人格障害、性同一性障害、死や黄泉の国、神の国の世界など、あらゆる豊穡な世界を体験し尽くす)

(5) 神や大魔神の声を聞いたり、神と合一したりすることから生じる自我肥大の危険性を回避し、謙虚さを常にこころがけながらそこを通過していく。導師の存在の大きさ。そこを通過すると自我の相対化が進む

- 
- (6) この秘儀を幾度も通過するプロセスでイニシエートされていく、自分が大いなるものに生かされているという実感、たいていの人の運命を引き受けようという覚悟ができる
- (7) 自我の呪縛から解放され、自己とつながり、自我＝自己枢軸のあり方を身につけて、日常の中で埋没する
- (8) ただの人、普通人の感覚、「無用の長」の意味を知る。小我を捨て、大我に生きる覚悟(CIのために悪人になる)

4) 内的探求の効果

- (1) 内なる世界(こころの中で感じているもの)と外なる世界(現実社会や臨床現場で生じていること)が確実につながっており、生き活きと連動しているを感じる
- (2) 精神病者が生きている世界を内なる体験の一部として感じる=受け取ることができるようになる
- (3) ロールシャッハの反応から、相手の生きている世界がありありと感じられるようになり、過去と未来を読めるように感じる(分析の過程で精神病体験を深く味わうことから)
- (4) CI=ペイシエント(受苦する者)の現実を見ながら、その人の過去が透けて見えてくる。母子関係や家族力動、生育史のトラウマやプロセス
- (5) 虐待・非行・人格障害がひとつにつながって見えてくる
- (6) これまでなら避けて通りたいと思う臨床現場やCIとも関与してみようと思う(毒食らわば皿まで)

内的宇宙(夢の住人)

- 影
- グレートマザー
- 父元型
- ペルソナ
- アニマ・アニムス
- トリックスター
- 永遠の少年・老賢者
- ウロボロス
- 障害者元型

外的宇宙(現実世界の関係者)

- 生きてこなかった人生の反面
- 母親・祖母・母代理
- 父親・祖父・恩師
- 制服の意味、仮面とその裏
- 恋人・憧れの対象・魂の導き
- 権威をひっくり返す力
- 未知の可能性・死の準備
- 精神病的混沌の世界
- 真の自己受容に至る道

存在の根源を味わい尽くす

- 普遍的無意識の探求

- 1) 自己存在を根元的に支えるもの

- ヌミノースの体験; イニシエートされる(通過儀礼)

- 一神教から多神教へ;

- “one of then” の感覚

- 2) 自己(Self)元型

- 自我の相対化ということ

- 自我の放棄; 明け渡し、悟るための準備

- 自我 = 自己枢軸

ご静聴ありがとうございました

- ご意見があれば、下記のメールアドレスにお願いします
- eguchin@dpc.agu.ac.jp
- また愛知学院大学のホームページから心身科学部→オリジナルサイト→心理学科→教職員一覧→江口昇勇 と辿っていくと私の個人ホームページにたどり着けますのでよろしければご参照下さい。